

事例7 自分を客観的に見ながら主体的に課題の克服に向かう力を育む事例

○学年 自閉症・情緒障害特別支援学級 (3年)

○指導内容及び指導の形態 自立活動

○事例のポイント

- ①生徒にとって身近で将来的に取り組まなければならない学習テーマを提示する。
- ②生徒の特性を理解しながら、学習課題や目標を設定する。
- ③ICT端末を活用して記録を残し、動画を見返しながら学習を進めていけるようにする。
- ④個人のICT端末に記録を残すことで、主体的な活動を促す。
- ⑤個別の指導を原則としているが、指導計画の中にある少人数での指導が対話的な活動をするこ
とで教育的効果があると考え、意図的に設定している。

ICTを活用した主な学習場面

- ・実際に面接を行った場面
- ・振り返りの時に、動画を繰り返し見返して自己評価する場面

ICT活用の利点

- ①記録に残していくことで、いつでも繰り返し見直すことができる。
- ②ICT端末を活用することで、生徒同士でお互いの動画を視聴し合い、相互評価をしていくなど対話的な活動に発展させることができる。
- ③手本となる動画を作成しておくことで、活動の最終到達点を視覚化することができるようになり、主体的な活動に結び付けることができる。
- ④動画を見ることで課題となっていることや、できるようになったこと、成功体験等、客観的な振り返りに活用できる。
- ⑤動画を撮りためていくことで、成長過程や努力の成果についても視覚化ができるようになり、自己肯定感を高める教材にすることができる。

1 主題名 「面接マスターになろう」

2 主題設定の理由

(1) 生徒の実態

本学級には、3年生1名の生徒が在籍している。活動内容の理解も早く、学習にもよく取り組んでいる。コミュニケーション能力は高く、複数人での対話や日常生活の会話にはあまり困らない。

一方で、例えば全校集会や儀式的行事など、集団の中に入って活動することや初めての活動に対して見通しをもちづらく、不安を強くもってしまう傾向があり、コミュニケーションがうまくいかなくなる場面も見られる。特に、他者の注目を集めるような活動は苦手なため、活動を行う際には生徒に対して視覚的な支援をして本人が納得してから活動に取り組めるようにしている。

(2) 主題について

本主題では、進路指導の一環として面接練習について取り組んでいく。中学校卒業を前に3年生には受験があり、先を見ると上級学校を卒業する時には就職活動がある。受験や就職など、人生を左右するタイミングで『面接』というイベントがあるということを考えると、中学校3年生の時期に面接について丁寧に学習を進めていく必要があると強く感じている。面接で上手くいくためには、本人が緊張を受け止めて取り組んでいくことであったり、挨拶や返事を相手に聞こえるようにしたり、質問の内容を理解して返答をしていくコミュニケーション能力が必要であったりと、さまざまな能力が求められる。本生徒の実態を踏まえ、課題の改善・克服に向けて、自立活動の指導内容である「2 心理的な安定(2)」や「3 人間関係の形成(3)」、「6 コミュニケーション(2)」を関連付け、面接練習や振り返りを通して取り組むことができるように計画した。

(3) 指導・支援について

指導にあたっては、『面接』を行う上で必要な動きや挨拶を場面で区切りながら指導していくこと、生徒個人に配布されたICT端末を活用して取組を記録する。動画で記録を残すことで、自己評価をする場面で動画を見返して客観的に自分の取組を見直したり、過去の動画と比較することで

成長した自分の姿を確認したりすることができる。また、生徒がスモールステップで学習の見直しをすることや新たに課題の設定をしていくことなど、さらなる成長を目指して主体的に課題の克服に向かう活動に取り組むことができる環境をつくることになり、学習の効果が上がることが期待される。振り返りではアンケート集計ソフトを活用し、目標の達成度を数値で評価していく。振り返りアンケートの項目は本生徒の自立活動の課題であり、各授業で行った評価を一覧で見ることができるようすることで、自己の成長が認識できるように活用していきたい。

3 生徒の実態

A (3年)	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的には指示理解ができて、進んで活動をすることができる。 ・発表会や集会のような、他者の注目を集めるような場面が苦手である。 ・興味や関心が高い事象については、すぐにICT端末で調べようとする。 ・活動の見通しをもつことができれば、課題と向き合いながら取り組むことができる。 ・知識はあるが、気持ちの部分について言語化して説明することが難しいことがある。
-----------	---

4 目標

- (1) 面接という特別な状況に対しての理解を深め、向き合いながら取り組むことができる。
 - 〈2 心理的な安定(2)状況の理解と変化への対応に関すること〉
- (2) 面接練習を通して自己の課題を認識し、課題を克服しようと努力することができる。
 - 〈3 人間関係の形成(3)自己の理解と行動の調整に関すること〉
- (3) 面接練習を通して相手の意図を受け取り、自分の考えを表現することができる。
 - 〈6 コミュニケーション(2)言語の受容と表出に関すること〉

事例のポイント②

生徒の特性に合わせた目標の設定

5 指導計画 (全8時間)

	授業目標	授業時数
1	面接練習に取り組もう <ul style="list-style-type: none"> ・面接の必要性について理解する。 ・ICT端末で面接練習を撮影し、自分の活動を客観的に評価する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> ICT活用の利点① 記録に残して、繰り返し見直すことができる。 </div>	1 (本時)
2	面接の流れと動きを確認しよう <ul style="list-style-type: none"> ・面接の流れについて「入室」「着席」「受け答え」「退室」に区切り、それぞれの場面でどのようにふるまうことが望ましいか理解する。 ・ICT端末で活動を撮影し、繰り返し視聴することで課題を修正していく。 ・動画を比較して見ることで、自分の成長を確認していく。 	4
3	面接を実施してみよう その1 <ul style="list-style-type: none"> ・教室で担任と面接練習を行い、学習の成果を確認する。 ・ICT端末で動画を撮影し、自分の活動を振り返ることで自信を深めさせる。 ・他の生徒と共に面接練習を行い、評価し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 事例のポイント⑤ 他者からの評価を生かし、自己を客観視したり、自己肯定感を高めたりするために、少人数での活動を意図的に設定している。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ICT活用の利点② 撮影した動画を基に生徒同士の対話的な活動に発展させることができる。 </div>	2

4	面接を実施してみよう その2 ・受験前に校長先生との面接練習を行い、学習の成果を確認する。 ・ICT端末で動画を撮影し、過去の自分と比較することで成長したことを確認し、成功できるイメージを持たせる。	1
---	---	---

特支編成要領 P25～ 指導計画作成上の留意事項 (1) (7) (12) (15) (17)

6 本時の学習 (本時 1 / 8時)

(1) 本時の目標

- ①動画やチェック表を活用することで面接に対して不安な気持ちを解消し、前向きに取り組むことができる。
- ②動画を視聴しながら、自分の動作のイメージと実際の動作との違いに気付くことができる。
- ③教師との振り返りの場面で、自己の気づきを自分の言葉で伝えることができる。

(2)展開

時間	学習活動	指導上の留意点 (※指導の手立て *評価の観点) ○生徒の活動 ◎予想される生徒の反応 □指導者の主な指示、発問	備考
10分	1 活動を 確認する	<input type="radio"/> 授業開始の挨拶をする。 ※受験について考えていくことを明確に伝える。 <input type="checkbox"/> 「受験ではどんな試験があるのだろうか」 <input checked="" type="radio"/> 「筆記試験」「実技試験」「面接」などと答える。 ※「面接」は、高校受験や就職活動において必ず実施される試験であることを意識させる。 <input type="checkbox"/> 「面接練習をしてみよう」 ※本時のめあてと授業の流れについて理解させる。	
10分	2 面接を 行うとき に気をつ けること を考える	<input type="checkbox"/> 面接を行うときにどんなことに気をつけながら行うことがよいか考えよう。 <input type="radio"/> 面接を行うことを想像しながら気をつけることを考えている <input checked="" type="radio"/> 「話し方」「姿勢」「目線」「受け答え」などと答える。 ※過去に実施した職場体験学習や校長面談等の活動を思い出させながら考えさせる。 ※日常生活を振り返り、自分の課題と向き合わせる。 *面接の流れを想像して考えることができたか。	
23分	3 実際に 面接練習 を行って みる	<input type="checkbox"/> 「実際に面接を行ってみましょう」 <input type="checkbox"/> モデルとなる動画を見てみましょう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">ICT活用の利点③</p> <p>手本となる動画を作成しておくことで、活動の最終到達点を視覚化することができるようになり、主体的な活動に結び付けることができる。</p> </div> <input type="checkbox"/> ICT端末の準備と教室環境を整えさせる。 ※順を追って、段階的に面接練習を行っていくことを説明する。 ※本時は、「入室」「着席」「受け答え」(学校名・学年・氏名)「退室」までを行う。	ICT 端末 モデル 動画 ワーク シート

事例のポイント①
生徒に身近な学習テーマ

	<p>4 面接練習を自己評価してみる</p>	<p>※生徒のICT端末を使用して、動画撮影を行う。</p> <div data-bbox="668 174 1281 315" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>事例のポイント③ ICT端末を活用して記録を残し、動画を見返しながら学習を進めていけるようにする。</p> </div> <p>○不安や緊張を感じながらも見通しを持って面接練習を行う。 ※ワークシートを活用して、具体的なポイントを確認する。 ◎不安や緊張と向き合いながらも活動しようとする。 ※ICT端末は面接官の机上に設置する。 ※面接を最後までやりきろうとしているかどうか。</p> <p>○活動の自己評価をする。 □「机と椅子の位置をもとに戻しましょう」 □「撮影した動画を視て、自己評価してみましょう。」 ◎動画を何度も繰り返し視聴している。</p> <div data-bbox="507 763 1398 864" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>事例のポイント④ ICT端末に記録を残すことで、主体的な活動が行いやすくなる。</p> </div> <p>※ICT端末で撮影した動画を見返しながら、ワークシートのチェック項目を活用して、自己評価させる。</p> <div data-bbox="550 987 1281 1171" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ICT活用の利点④ 動画を見ることで課題となっていることや、できるようになったこと、成功体験等、客観的な振り返りに活用できる。</p> </div> <p>※課題として見えたことだけではなく、よかったところにも注目するようにさせる。 ※「姿勢」「声」「表情」「動き」などの視点で考えるようにさせる。 ※自己評価を言語化させて発表させる。 ◎よかったこと、課題となったこと、次回の目標などを発表する。 ※動画を見返しながら、自分の動作のイメージと実際の動作とのちがいに気付くことができたかどうか。</p>	
7分	<p>5 振り返りと次時の見通しを持つ</p>	<p>○アンケート集計ソフトを使い、振り返りをする。 ※自己の気付きを自分の言葉で伝えることができたか。 □活動の様子を踏まえて、次時以降の活動の話をする。 □記録した動画は消去せずに残しておくようにさせる。 ※授業の時だけではなく、いつでも視聴して良いことを伝える。</p> <div data-bbox="612 1675 1262 1771" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ICT活用の利点① 記録に残すことで、いつでも視ることができる</p> </div> <p>※動画を撮りためていくことで比較ができるようになり、変化や成長に気付けるようになることを説明する。</p> <div data-bbox="467 1910 1385 2045" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ICT活用の利点⑤ 動画を撮りためていくことで、生徒の成長過程や努力の成果についても視覚化ができる。自己肯定感を高める教材にすることができる。</p> </div> <p>○授業終了の挨拶をする。</p>	ICT端末

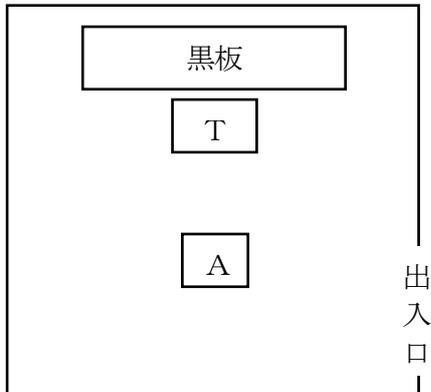
7 本時の評価

- ①動画やチェック表を活用することで面接に対して不安な気持ちを解消し、前向きに取り組むことができたか。
- ②動画を視聴しながら、自分の動作のイメージと実際の動作とのちがいに気付くことができたか。
- ③教師との振り返りの場面で、自己の気づきを自分の言葉で伝えることができたか。

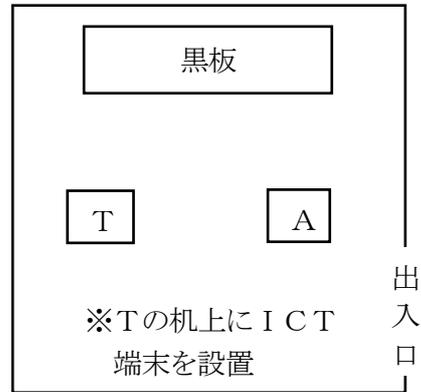
8 備考

・教室環境図

【配置① 授業開始時/振り返り時】



【配置② 面接練習時】



・ワークシート（チェック項目）

「面接マスター」への道 チェック表	
〈話し方〉	
1 明るく大きな声	
2 はっきりと聞き取りやすい声	
〈姿勢・目線〉	
1 背筋を伸ばす	
2 面接官の顔をまっすぐ見る	
3 表情は笑顔	
4 手は軽く握り、太ももの上に置く	
〈受け答え〉	
1 返事やあいさつをする	
2 「～です」「～ます」までしっかりと言い切る	
3 質問に合った回答をする	
4 短く話す	
5 分からない質問は、聞きなおす	

〈入室〉	
1 ノックを3回する	
2 ドアを両手で開ける	
3 「失礼します」と言い、礼をする	
4 中に入り、ドアを両手で閉める	
5 面接官の方を見る	
6 椅子の横まで歩き、気をつけをして待つ	
7 声がかかったら、着席する	
〈退室〉	
1 イスの横に立ち、「ありがとうございました」と言う	
2 ドアまで歩く	
3 両手でドアを開ける	
4 外に出て、「失礼しました」と言い、礼をする	
5 両手でドアを閉める	

・振り返りアンケート

振り返りアンケート				
1 不安な気持ちを解消し、前向きに取り組むことができた	4	3	2	1
2 苦手なことを理解し、できるようになると努力することができた	4	3	2	1
3 相手の質問に対して自分の言葉で答えることができた	4	3	2	1
4 自信になったこと、できるようになったことを書きましょう。				